

# 1. 避難時に有用となる情報提供施設の整備①

## 道道における津波避難対策

### 概要

東日本大震災にて発生した巨大な津波による甚大な被害を踏まえ、最大クラスの津波襲来時には住民等の避難行動を軸とした総合的な津波対策が必要です。

そこで、道路利用者に対する津波被害軽減のための対策の一つとして、道路施設等に海拔情報を表示し、津波発生時に避難行動をとるべきかどうかの判断材料となる情報を提供します。

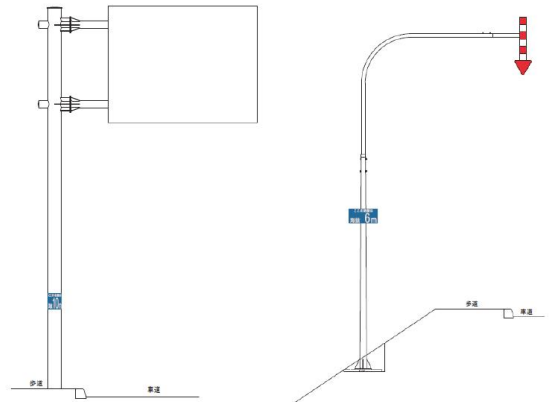


シート貼付タイプ



標識板タイプ

海拔表示シートのレイアウト



施工イメージ図

### ◆ 表示対象区間・間隔

北海道の津波浸水予測（設置時点で最新のもの）で示す浸水区域内及びその前後の区間

### ◆ 設置間隔

市街地や集落では約200～300m間隔、郊外は概ね1,000m間隔

### ◆ 設置位置

地盤から1.5m程度の高さに設置することを基本、冬期の堆雪高等、地域の実情に応じて1.5mを超える高さに設置



海拔表示シートの設置展開イメージ

# 1. 避難時に有用となる情報提供施設の整備②

## 道道におけるアンダーパス冠水対策

### 概要

近年、全国的に多発している豪雨により道路アンダーパス等の比較的冠水の発生しやすい区間において、道路利用者にリアルタイムな路面状況を情報提供する必要があります。

そこで、悪天候時の夜間など視界の悪い状況においても、あらかじめ表示板により情報提供することで、事故を未然に防ぐことを目的としています。



警報表示の設置例（道道室蘭環状線）

### ◆表示対象区間

アンダーパスの前後区間

### ◆システム構成

水位センサと連動した警報表示板、管理者への自動通報装置を併せ持つシステム



このような事態とならないために・・・

道路情報板

自動通報装置



情報板制御機

水位センサー

停電センサー



警報表示システムの概要図

警報表示システムの概要図（水位センサーと連動した道路情報板への表示システム）